

〔科目名〕 マクロ経済学	〔単位数〕 4 単位	〔科目区分〕 専門科目 基礎科目
〔担当者〕 山本 俊 shunyamamoto0723@yahoo.co.jp	〔オフィス・アワー〕 時間: ①授業終了後、②火曜日 5 限、③随時 場所: 授業初回にアナウンス	〔授業の方法〕 講義
〔科目の概要〕 <p>みなさんは、いわゆる「失われた 20 年」と呼ばれる不況期の半ばに生まれ、その後の緩やかな景気回復期の中で成長してきました。その間に限っても、物価の持続的な低下や、リーマンショックに端を発する世界金融危機、そうした状況からの脱却を目的とした「アベノミクス」などが、毎日のように新聞の記事となってきました。そしてそれらは、家計や企業、政府からなる我が国の生産や消費、投資の全体、すなわち「マクロ経済」に大きな影響を与えてきたのです。この科目を通じて、過去あるいは未来の様々な出来事が「マクロ経済」に与える影響を順序立て説明できるようになり、さらには、自分たちの暮らしへの影響を考えることができるようになって欲しいと思います。そのため、この授業は大きく 3 つのパートによって成り立っています。</p> <p>第 1 は学習意欲を高めるパートです。ここでは、目には見えない「マクロ経済」の可視化に挑戦したり、1920 年代の世界大恐慌時における経済学の大転換について紹介したりします。この大転換はケインズによるものであり、学問を現実に即して批判的に考察するというケインズ精神に触れて欲しいと思います。</p> <p>第 2 はマクロ経済学の基本的なモデルを学習するパートです。ここでは、財市場と金融市場の双方を考慮したマクロ経済学モデルや、外国為替を考慮したモデル、経済成長を分析するモデルを学習します。さらには、これらを学ぶために必要な消費や投資、財政、貨幣、為替相場に関する基本事項についても学習します。</p> <p>第 3 は第 2 の学習を基本としつつ、現実の問題を考察したり、公務員試験問題に挑戦したりすることで、理解を確実なものにするパートです。例えば、現実の問題として、我が国における超緩和金融政策の意義や「アベノミクス」が果たした役割、アジア諸国の経済成長などを扱う予定です。</p> <p>以上の学習では、考えるプロセスを大切にするため、ミクロ経済学や基礎的な数学（微分、等比級数など）の復習も必要に応じて行います。</p>		
〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・「なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか」 <p>マクロ経済学は、私たちの暮らしと密接に関係する「失業問題」や「物価変動」、「為替相場」、「経済政策」の影響などを見通しを与えてくれるだけでなく、諸君が学ぶであろう「金融経済学」や「経済変動論」、「公共政策論」、「ファイナンス理論」等の基本をなしています。従って、時間をかけて、じっくりと学ぶ必要があります。</p>		
〔科目の到達目標(最終目標・中間目標)〕 <p>中間目標：①マクロ経済学の規模や物価変動の計測が具体的にできること。 ②基本モデルの意味を理解し、公務員試験問題等により定着を確認できること。 (解けるようになって楽しい。ごちゃごちゃした解説を読むよりも、自分なりに解法を考えて欲しい)</p> <p>最終目標：利子率や所得、為替レートなどの変数間の因果関係を理解し、各変数の変化が私たちの暮らしや仕事に与える影響について、見通しを立てられるようになること。 (学んだことを、身近なところから、活用できるようになること)</p>		
〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕 <p>青森公立大学では、授業評価を頂いたことはありません。しかし、「考えるプロセス」を大切にし、具体的な説明と数多くの問題演習等により、分かりやすい授業を心がけます。</p>		
〔教科書〕 ・福田慎一、照山博司 (2016) 『マクロ経済学・入門第 5 版』有斐閣アルマ。 パワーポイントの資料も配布します。		
〔指定図書〕 ・N. グレゴリー・マンキュー (著)、足立英之他 (翻訳)、「マンキュー マクロ経済学 (第 3 版) 1 入門篇」、東洋経済新報社、2011 年 ・N. グレゴリー・マンキュー (著)、足立英之他 (翻訳)、「マンキュー マクロ経済学 (第 3 版) 2 応用篇」、東洋経済新報社、2011 年		

・齊藤誠・岩本康志・太田聡一・柴田章久, 「マクロ経済学 New Liberal Arts Selection」新版, 有斐閣, 2016 年

【参考書】

- ・二神考一 (2017) 『マクロ経済学入門 第3版』日本評論社。
※可能な限り数式を使わず、直感的な説明が多い。教科書よりも的を絞っている。
- ・中谷巖、下井直毅、塚田裕昭 (2021) 『入門マクロ経済学 第6版』日本評論社。
※長期と短期を明確に区別しており、さらには、2021年2月刊行のためデータも新しく、MMT理論などの新しいトピックも扱っている。教科書よりも突っ込んだ内容となっている。

【前提科目】

・特になし。ただし、ミクロ経済学や経済数学を履修しているとより良い。

【学修の課題、評価の方法】(テスト、レポート等)

以下の①から③の合計を評価基準に照らして評価します。

- ① 期末試験の得点：6割
- ② クイズの得点：3割
- ③ 課題の取り組み状況等：1割

【評価の基準及びスケール】

評価	得点割合	評価	得点割合
A	100%～80%	D	60%未満～50%
B	80%未満～70%	F	50%未満
C	70%未満～60%	—	—

【教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望】

- ①考えるプロセスを大切に授業を強く意識します。
- ②理解を確かなものにするため、確認問題を配布しますので確実にこなしてください。
- ③不足している予備知識がある場合には可能な限り授業内で補います。
- ④学習効果を高めるため、教科書の内容が前後したり、教科書にない内容を取り上げたりする場合があります。
- ⑤試験については、学生の努力が報われるような出題を心掛けます。

【実務経歴】

特になし

授業スケジュール

第1回	テーマ(何を学ぶか):経済、経済学とは何か?+ガイダンス 内 容:「経済」という言葉を知らない学生は一人もいないでしょう。しかし、その意味を簡潔に述べることは容易いことではありません。この授業では、経済の全体像の可視化に挑戦したいと思います。 教科書・指定図書:
第2回	テーマ(何を学ぶか):2つのGDPとGDPの面白ばなし 内 容:GDPには大きく2種類ありますので、その違いをしっかりと理解してください。 教科書・指定図書:教科書第1章
第3回	テーマ(何を学ぶか):GDPデフレーターとCPI 内 容:GDPの計測に関して、物価変動がどうして厄介者なのか、そこにどんな工夫をもって向き合うべきかを理解してください。 教科書・指定図書:教科書第1章
第4回	テーマ(何を学ぶか):マクロ経済学の巨人「ケインズ」の学ぶ姿勢 内 容:皆さんが学ぶマクロ経済学の基本を創り上げたのはケインズです。1923年の世界大恐慌で生じた大量失業問題に、彼はどのように向き合ったのでしょうか?ケインズの学ぶ姿勢に触れることで、今後の学習意欲を高めてください。また、シフトパラメータという概念も理解してください。 教科書・指定図書:教科書第10章に関連

第5回	<p>テーマ(何を学ぶか):消費の拡大には何が必要か?</p> <p>内 容:家計の消費を拡大させる要因はなんのでしょうか?一方で、消費を抑制した場合には何が増加するのでしょうか?こうした視点から経済全体の動きについて考えてみましょう。</p> <p>内 容:</p> <p>教科書・指定図書 : 教科書第2章</p>
第6回	<p>テーマ(何を学ぶか):日本の貯蓄率の国際比較とその変化</p> <p>内 容:日本人の貯蓄率は高かったものの、最近はその低下が指摘されています。どうしてこうした変化が生じてきたのでしょうか。その理由を考えてみましょう。</p> <p>教科書・指定図書 : 教科書第2章</p>
第7回	<p>テーマ(何を学ぶか):投資と利子率の間には、どんな関係があるのでしょうか?</p> <p>内 容:企業の設備投資と利子率の関係をしっかり理解して下さい。ここでの考え方は財市場と金融市場の間の関係性を学ぶ上でも重要になります。</p> <p>教科書・指定図書 : 教科書第3章</p>
第8回	<p>テーマ(何を学ぶか):投資はどのように行われるのか?</p> <p>内 容:企業の設備投資には、固定資本減耗が生じるだけでなく、費用や時間も必要になります。</p> <p>教科書・指定図書 : 教科書第3章</p>
第9回	<p>テーマ(何を学ぶか):企業の資金調達と家計の資産選択</p> <p>内 容:我が国の間接金融(銀行借入れ)の優位を出発点に、企業の資金調達と家計の資産選択について考えてみましょう。</p> <p>教科書・指定図書 : 教科書第4章</p>
第10回	<p>テーマ(何を学ぶか):1989年12月29日と株価に関する2つの理論</p> <p>内 容:日経225とは何でしょうか?また、1989年12月29日には何があったのでしょうか。こうした説明から、株価の決定理論と企業価値について考えてみましょう。</p> <p>教科書・指定図書 : 教科書第4章</p>
第11回	<p>テーマ(何を学ぶか):どんなときに貨幣が必要になるのか?</p> <p>内 容:マクロ経済学に登場する金融資産の中心は貨幣と債券です。では、どんなときに、どちらの金融資産を保有すべきでしょうか?ここでは、債券の利回りの計算についても触れておきましょう。</p> <p>教科書・指定図書 : 教科書第5章(※4章も一部含む)</p>
第12回	<p>テーマ(何を学ぶか):貨幣需要関数の登場</p> <p>内 容:横軸に貨幣需要量、縦軸に利子率をとった場合、第11回目の内容から、どんなグラフが描かれるのでしょうか?ここでも、シフトパラメータが登場します。</p> <p>教科書・指定図書 : 教科書第5章(※4章も一部含む)</p>
第13回	<p>テーマ(何を学ぶか):中央銀行の役割と貨幣需給の均衡</p> <p>内 容:我が国の貨幣供給の調整は中央銀行たる日本銀行が担っています。では、中央銀行による貨幣供給と私たちの貨幣需要が一致するとき、総生産と利子率はどのような動きを見せるのでしょうか?</p> <p>教科書・指定図書 : 教科書第5章</p>
第14回	<p>テーマ(何を学ぶか):LM曲線の登場</p> <p>内 容:第13回目の内容をもとに、LM曲線を導出してみましょう。また、アベノミクスの流れを汲む現在のような金融緩和策が採られた場合、LM曲線にはどんな影響があるのでしょうか?</p> <p>教科書・指定図書 : 教科書第5章</p>

第15回	<p>テーマ(何を学ぶか):経済分析のはじまり ー有効需要原理と45度線分析ー</p> <p>内 容:ケインズは実際に財やサービスを購入可能な人々の「欲しい」という思いを有効需要と呼び、それに見合った供給が実現すると主張しています。では、こうした考え方を簡単な数式と図を使って表現すれば、どうなるのでしょうか?さあ、経済分析の始まりです。</p> <p>教科書・指定図書:教科書第6章</p>
第16回	<p>テーマ(何を学ぶか):満を持してIS曲線の登場です</p> <p>内 容:LM曲線の導出にならって、財市場が均衡するような総生産と利子率の関係を図示してみよう。そこに描かれているのがIS曲線です。では、当初アベノミクスが掲げていた財政出動策はIS曲線にどんな影響をもたらしたのでしょうか?</p> <p>内 容:</p> <p>教科書・指定図書:教科書第6章</p>
第17回	<p>テーマ(何を学ぶか):中間クイズ</p> <p>内 容:ここまでの学習内容に関してクイズを実施し、その内容について解説します。(復習)</p> <p>教科書・指定図書:教科書第6章</p>
第18回	<p>テーマ(何を学ぶか):IS-LM分析①ークラウンディング・アウト効果ー</p> <p>内 容:財市場と貨幣市場が同時に均衡するとき、失業はゼロになっているのでしょうか?もし、失業者が発生している場合、ケインズの指摘のように財政出動策によって雇用対策を実施すれば、思わぬ副作用が発生してしまいます。これがクラウンディング・アウト効果です。</p> <p>内 容:</p> <p>教科書・指定図書:教科書第7章</p>
第19回	<p>テーマ(何を学ぶか):IS-LM分析② ー流動性のわなと問題演習ー</p> <p>内 容:失業問題を金融緩和策によって対応すれば、クラウンディング・アウト効果は発生しません。しかし、金融緩和策が有効に機能しないケースも存在します。それが流動性のわなです。</p> <p>内 容:</p> <p>教科書・指定図書:教科書第7章</p>
第20回	<p>テーマ(何を学ぶか):IS-LM分析③ ー投資の利子弾力性がゼロのケースと問題演習ー</p> <p>内 容:第18回目の授業で学んだように、金融政策が有効に機能しないケースは他にもあることが知られています。それは投資の利子弾力性がゼロのときです。</p> <p>教科書・指定図書:参考書 中谷他(2021)の6章などをご覧ください。</p>
第21回	<p>テーマ(何を学ぶか):IS-LM分析④ ー問題演習による復習(ミニクイズもあるかも)ー</p> <p>内 容:ここでは、IS-LM分析の問題演習を通じて、復習したいと思います。</p> <p>教科書・指定図書:参考書 中谷他(2021)の6章などをご覧ください。</p>
第22回	<p>テーマ(何を学ぶか):超金融緩和策の効果とは?</p> <p>内 容:ここでは、名目利子率やと非伝統的金融政策を学んだ上で、日本銀行のマイナス金利政策や上場投資信託などの購入の必要性和効果について考えてみましょう。</p> <p>教科書・指定図書:教科書第6章</p>
第23回	<p>テーマ(何を学ぶか):財政出動の後遺症とは?</p> <p>内 容:「10万円の特別定額給付金は、現在の皆さんが将来の皆さんからした借金のようなものです。よって、返済に向けて貯蓄しておかなければならないので、消費にはつながりにくいのです」という考え方を皆さんはどう思いますか?国債の中立命題について学習します。</p> <p>教科書・指定図書:教科書第8章</p>
第24回	<p>テーマ(何を学ぶか):インフレとデフレ</p> <p>内 容:例えば、インフレと言っても、コスト上昇によるもの、需要の変化によるもの、市場構造によるもの、災害や戦争などによるもの、金融政策によるもの、複数の要因によるもの(「狂乱物価」)など、いくつもありま</p>

	<p>す。ここでは、インフレやデフレのメカニズムを理解し、これらがなぜ望ましくないのかを考えて見たいと思います。</p> <p>教科書・指定図書：教科書第9章</p>
第25回	<p>テーマ(何を学ぶか):労働市場の分析</p> <p>内 容:第4回目の授業でも学んだように、世界大恐慌における失業問題に対し、当時の(古典派)経済学は有効な解決策を提示できなかったものの、ケインズは完全雇用が実現するまでは賃金が硬直的だと考えることで、新たな考え方を提案しました。ここでは、その後に主張された失業率とインフレとの関係(フィリップス曲線や自然失業率仮説など)について考えてみましょう。</p> <p>教科書・指定図書：教科書第10章</p>
第26回	<p>テーマ(何を学ぶか):経済成長の理論と成果</p> <p>内 容:ソローの成長会計を学習し、経済成長の要因について理解しましょう。その後、デニスンによる高度成長期当時の成長要因に関する国際比較や、失われた10年当時の日本の成長要因について学習します。また、中国や東アジアの経済成長についても考えてみましょう。</p> <p>教科書・指定図書：教科書第11章</p>
第27回	<p>テーマ(何を学ぶか):国際マクロ経済学①</p> <p>内 容:これまで輸出入については考えてきませんでしたが、ここでは、対外経済取引について説明した後、海外との取引を含めたマクロ経済学の理論を学習します。</p> <p>教科書・指定図書：教科書第12章及び中谷他(2021)の第7章</p>
第28回	<p>テーマ(何を学ぶか):国際マクロ経済学②</p> <p>内 容:為替相場制度の歴史的な推移と2つの制度の違いについて考えてみましょう。</p> <p>教科書・指定図書：教科書第12章及び中谷他(2021)の第7章</p>
第29回	<p>テーマ(何を学ぶか):国際マクロ経済学③</p> <p>内 容:IS-LM分析に、為替相場を含めることで、国際マクロ経済学の基本的な理論モデルを学習します。これはマンデル=フレミング・モデルと呼ばれるものです。</p> <p>教科書・指定図書：教科書第12章及び中谷他(2021)の第7章</p>
第30回	<p>テーマ(何を学ぶか):国際マクロ経済学④</p> <p>内 容:2つの為替相場制度の下で、経済政策の効果がどのように異なるのかを考えてみましょう。</p> <p>教科書・指定図書：教科書第12章及び中谷他(2021)の第7章</p>
試験	<p>これまでの学習内容に関する期末試験を実施します。</p>